

第1分科会委員への意見照会結果

○○…検討箇所 △△…字句修正

頁	項 目	委員名
1-2	1 学校・学科の在り方に関する基本的な考え方	
	(1) 加除修正に関する意見	
1-2	○ 高校の存在を問うとき、生徒を第一主体と捉えることについて異論はありません。ただ、高校と地域構造（高校が存在するために必要な地域インフラ）を考えたとき、高校が担うべき役割（＝使命）もしくは存在意義を明確にする時期に来ているのではないかと思います。教育再生実行会議では、人口減少問題・教育問題・産業構造問題を一緒に解決する手立てが必要だと言っているくらいです。私は、p 1、2の背景、求められる力、視点に <u>高校の存在意義や役割（使命）について触れる必要を感じます。</u>	佐藤委員
1	(これからの時代に求められる力の育成) ○ 「社会で必要となる基礎的・基本的な知識・技能を生徒一人一人に <u>確実に身に付けさせ、それらを活用して主体的・協働的に課題を解決する力及び意欲を育むこと</u> が求められている。」としてはどうか。（主語を整理すべき。）	相馬委員
2	(学校・学科のあり方の検討に当たっての視点) ○ 「大学入学者選抜の改革や学習指導要領改訂等の検討が進められているところであり、 <u>国の教育施策</u> の動向を注視し、適切に対応する必要がある。」としてはどうか。	
	(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見	
1	○ 普通科については、従来から社会との接続に関する課題が指摘されている。したがって、1ページの「キャリア教育を一層推進する」「必要に応じて職業教育を取り入れる」という視点は大変重要であると考えます。	花田委員
2	○ 中学生や保護者は普通科を志向する傾向があるが、中学校におけるキャリア教育の充実、魅力ある高等学校専門学科の充実への取組と、中学生や保護者に対する学科内容のさらなる周知などにより、選ばれる学校・学科となる努力が必要と考える。 ○ 生徒の希望のみで学科の構成比を検討するのではなく、国や地域の産業・経済を支えるために必要な人材を養成するための学校・学科という視点もなくすべきでない。	遠島委員
2	○ 検討に当たっての視点に関しては方向性として異論はない。 しかし、「複数の学科を有する新たな高等学校の設置についても検討する必要がある。」という部分については他県の状況を実際に視察しながら慎重に検討すべきである。	千代谷委員
2	○ 視点の中に書かれている「一学校、一地域という視点ではなく、学校同士、学校と産業界、学校と地域がつながり、県全体、すなわち『オール青森』の視点で取り組む」考えに賛成です。一つの狭い枠組みで考えず、大きな枠組みで考えることが必要だと思います。（ただ、それに向けたインフラ等環境整備が大前提ですが…）	南谷委員
2	○ 拠点校の設置は必要であると考えます。また、拠点校以外的高校はその特色等を考え合わせ複数学科の総合高校等で検討することも必要と考える。	川口委員

頁	項 目	委員名
3-6	2 全日制課程の方向性（1）普通科等	
（1）加除修正に関する意見		
① 普通科		
4	○ 拠点校、単位制など特色化を図ることについて賛成であるが、 <u>「拠点校」のイメージがはっきりつかめていない。</u> 例えば、医学部医学科進学等に重点的に取り組む拠点校は、 <u>取組の成果を他地区の学校へも普及させる先導的な役割を果たしてもらい、拠点校のみならず、県内各地域の学校の医学部医学科への進学者増を図るための拠点校</u> としたい。	遠島委員
4	○ <u>「医学部医学科進学等に重点的に取り組む拠点校」に関しては拠点校以外で学ぶことになる生徒の夢を閉ざす危険性がある。</u>	千代谷委員
3-4	○ 3, 4 ページにおいて「リーダー育成」を謳っている。しかし、 <u>各学科のうち普通科だけリーダー育成を掲げるのは、あたかも学科の格付けをするかのような違和感を覚える。</u>	花田委員
＜上記以外＞		
6	○ ※6 「入学後」 でない場合もあるので、削除してはどうか。 ○ ※8 「最初に」 をいつ頃なのか時期がわかるようにした方がよい。	福井委員
（2）学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
＜普通科等全体＞		
3	○ 社会を牽引する人材、グローバルリーダー等は、どの程度輩出されているか。世間の思い込みと乖離がないか。使命感を持った取組が必要。	高橋（公）委員
3	○ 各専門学科についての意見にもあるが、存続・廃止について検討する必要があると考える。 ○ 生徒減少は避けられないことであり、その中で特に郡部の生徒の多様なニーズに応えるためには、近隣の普通、専門高校との統合（新しい校名で）により、総合高校として検討していくことが必要と考える。	川口委員
3	○ 普通科系の専門学科の見直しについての方向性として異論はない。	千代谷委員
3	○ 普通科系の専門学科の見直しについては賛成です。本構想検討会議の主因は生徒数減で、例えば、募集定数に満たない高校は、集団教育（個別教育に対して）機関としては教育の質の点から、数校が統合すべきであると考えます。 ○ また、教育は平等であるのが理想ですが、奨学生の増という現実から経済の影響が大であり、その点から地域インフラに必要な人財を育成するため地域限定で、例えば、3市～5市に特別な普通科高校設置も視野に入れる必要を感じています。 ○ 同時に、このことを実現するために、「わかること（知識）」「できること（技術・技能）」をしっかりとわきまえた教員を育てることが重要になります。	佐藤委員

頁	項 目	委員名
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
② 理数科、③ 英語科・外国語科		
4-5	○ 普通科系専門学科については、各校のこれまでの取組を高く評価すべきと思うが、教育改革により初等中等教育段階からの理数教育の強化や小・中・高を通じた系統的な英語教育などが見込まれることから、「理数科」及び「英語科・外国語科」の役割をあらためて見極め、その在り方を検討するということに賛成である。	山口委員
4	○ 理数科について、五所川原高校では成果は出ている。近年の理数系志向の高まりを鑑みても存続させるべきである。ただし、普通科単位制への転換についてはカリキュラム上無理がないか慎重に検討する必要がある。	千代谷委員
4-5	○ 理系女子などの言葉が生まれるように、今、理数系の大学進路志望が増える傾向にある中、本県の理数科の志望倍率が低いのは、中学生に「理数系」の決断を要求することに無理があるように思える。だとしたら、あえて理数科を設けなくても良いのでは。入学してから理系、文系といった、選択を決定しても遅くはないし（医学系は遅いのかも知れないけど…）、入学時での選択ミスも少なくてすむだろう。他の学科（普通科系の専門学科）についても同様と考える。	南谷委員
5	○ 英語科・外国語科の語学習得に特化した教育は、他科の英語教育との区別が難しくなっていることから、廃止の方向で検討する必要があると考える。	相馬委員
5	○ 英語科・外国語科について、方向性のあるように英語教育はすべての高校で取り組むべき課題である。現状では教員が特色を出すために工夫しているようにしか見えない。例えば、留学を必修科目にするとカリキュラムを抜本的に見直し中学生にアピールできる学科を目指すべきである。外国語科は単に英語力の向上ではなく国際バカロレアなどを意識した方向性であってほしい。IBについて文部科学省は200校を目標にすると表明している。	千代谷委員
④ スポーツ科学科		
5	○ スポーツ科学科だけはその特性から言って、入学前からの意志決定はしやすく、希望者を増やすために入試自体をより明確に別個にし、より特長を生かす学科にすべきだと思う。	南谷委員
5	○ スポーツ科学科については、「スポーツ指導者など生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する人財の育成」を目的とし、進学を主とする高校に設置することや専門学科とせず体育系の科目を選択履修できるようにすることなどを検討すべきではないか。	山口委員
5	○ 指導者養成や全国レベルの競技者養成の目的は達成されているとは思えない。しかし、スポーツに親しむことは生涯を通して豊かな生活を送る上で必要である。全ての高校での取組が望まれる。	千代谷委員
⑤ 表現科		
6	○ コミュニケーション能力の育成は全ての高校で必要である。	千代谷委員

頁	項 目	委員名
7-11	2 全日制課程の方向性 (2) 職業教育を主とする専門学科	
(1) 加除修正に関する意見		
7	○「基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した学科の見直しを検討する必要がある。」→「 <u>学科への見直し</u> 」ではないか。	相馬委員
8	○ 工業科の方向性は、物づくりを担う人材と高度な技術を身につけた技術者の養成と考える。そのため、大学等との連携のみならず、 <u>企業との連携・協力を推進</u> する必要がある。	遠島委員
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
7	○ 近年、各方面において職業教育を主とする専門学科を再評価する声がある。これは、教育内容・方法が生徒の学習に対する強い動機付けとなっていること、学習を通して自己肯定感を高めていること、そして地域産業の担い手を育てていること等による。したがって、専門学科については、地域バランス等に配慮した維持と充実が望ましいと考える。	花田委員
7	○ 現場に即した知識・技術の活用などの実践知は、職業教育を主とする専門学科で身につけやすいものとする。この実践知を再評価する社会がやがて到来し、無目的な大学進学至上主義の解消が図られればと思う。	高橋(公)委員
7-11	○ 県内の職業高校は総じて人財づくりという観点からも成果は出ていると思う。青森県の職業学科で学ぶ生徒の割合が高いのは全国的な視点での地域性に過ぎない。中学生の志望が低いのは中学生に職業高校の長所がよく理解されていないという側面もあるのではと思う。商業高校に関して言えば、高大連携を通してスペシャリストを育成しようという取組は始まったばかりである。成果はこれから出るものと思う。 ○ 特に農業・水産は本県の基幹産業であり、地域経済の振興という観点からも特段の配慮をしていくという視点も必要なのではないか。 ○ 大学科を統合した総合高校は他県の状況を詳細に分析し、慎重な検討が必要である。 ○ 看護科は本県で不足している医療分野への人材供給という使命があることを考えればより専門的な学習を充実させていく方向性は必要である。	千代谷委員
8	見直しにある通り、拠点校の設置(経営者育成高校で5学科構成)が重要です。その他の高校も6次産業化へ向け、地域ニーズを汲んだ学校設置が必要だと考えます。 また、農業高校においては地域農業の拠点としての役割を担うことが必要で、成人農業教育研修機関としての使命、更には、アグリマイスター制度の定着、農業の職業的意義を生涯学習社会の中で一般化する役割も求められています。 特に、農業高校の農業教育により、国が転換しようとしている資源供給型産業から食料供給型産業の在り方について「わかる・できる」教育インフラを整備するためにも連結(学校間・企業と・行政と・民間等と)がキーワードであることは確かです。	佐藤委員

頁	項 目	委員名
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
7	<p>○ 職業教育を主とする各校では、それぞれの専門分野で充実した教育活動を展開し、地域の将来を担う職業人（産業人）を育成してきていることは、衆目の一致するところである。</p> <p>したがって、各専門分野の幅広い学習内容を提供する拠点校を設置したり、各校の連携体制を整えるという考え方には賛成である。</p> <p>○ また、生徒の多様な教育活動に資するような、普通科や各専門学科を併置する高校の設立についても検討すべきではないかと思う。</p>	山口委員
7	<p>○ 拠点校の考え方には同意するが、拠点校以外の高校はその特色等を考え合わせ複数学科の総合高校等で検討することも必要と考える。</p>	川口委員
10	<p>○ 看護学科については、5年一貫教育の成果が顕著に現れている。また、今後の高齢化に対応していくためにも専門的な学習や施設・設備を充実させることが望ましいと考える。</p>	川口委員

頁	項 目	委員名
12	2 全日制課程の方向性 (3) 総合学科	
(1) 加除修正に関する意見		
12	○ 「総合学科としての特色を活かした教育活動を行うことが難しい場合には、普通科への改編等を含め検討する必要がある。」と記載されている。これはやや唐突な印象を受ける。また、他の学科の記載に比べても、この箇所だけ断定的に感じられる。	花田委員
12	○ 下から3行目について、「加えて、総合学科を有する学校以外においても、」としてはどうか。	福井委員
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
12	○ 本県の総合学科については、キャリア教育が充実し、課題解決型学習が重視されるなどの評価があることから、現状を肯定した上で、本県の総合学科を捉え直し、「一定の規模とすること等」にこだわりすぎず、教育課程の工夫により教育内容の充実を図るべきと考える。	遠島委員
12	○ 東青地区部会の意見にもあるように「時代を先取りした」あるいは時代の要請に合致した学科であると思う。レジャーランド化した大学で無為に時間を過ごすくらいなら、総合学科で社会の現実を知り、即戦力として貢献する進路を保護者・学生がもっと選んで良いと思う。	高橋（公）委員
12	○ 総合学科においては、基礎的な知識・技能のほか、主体的に学ぶ態度や思考力・判断力・表現力を育成するなど、現在の高等学校教育における課題に対応した総合的な教育が展開されている。したがって、総合学科については、地域バランス等に配慮した維持と充実が望ましいと考える。	花田委員
12	○ 総合学科高校の持つ役割を地域社会との連結の視点で、もっと明確にすべきであると考えます。ここから整理統合すべき具体的内容・学校の設置の方向性が見えてくるように思います。守る地域を視野に入れるべきです。 ○ 多様な選択科目を用意することは重要ですが、教員の質の確保の面から無理があり、また施設等の充実を効果的に進めることも無理となれば、キーワードは連結ですから、お互いウインウインの関係構築のために、より高校の役割を明確に示していくことが重要になります。	佐藤委員
12	○ 専門的な学習という観点では専門高校に及ばないが、生徒の多様なニーズに応えるという総合学科本来の目的を達成するため、多様な選択科目を設定しており、それに対応した教員数・設備は必要である。それができるかという点で検討すべきかと思う。	千代谷委員
12	○ 総合学科から普通科への改編や、他の学科から総合学科への転換を検討する必要があると思うが、教員、施設・設備、予算を確保するという前提がなければならぬと思う。	川口委員

頁	項 目	委員名
13	3 定時制課程の方向性	
	(1) 加除修正に関する意見	
13	○ ※18の「習得」→「修得」	福井委員
	(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見	
13	○ 定時制課程が単位制、定通併修、技能連携など、様々な制度を積極的に取り入れて柔軟な教育課程を実施していることが評価される。	遠島委員
13	○ 平成28年度以降の県内の定時制高校は地域的にもバランスがとれていると考えるので維持していくべきである。(金木高校市浦分校は市立ではあるが) ○ 定時制普通科にあっては、コース制(進学、体育、商業等)を導入し、中学生・保護者から選ばれる要素をつくり、積極的に定時制を志望する環境を整えていくことが必要であると考えます。 ○ 定通共通の特別な支援を要する生徒への対応として、教員の増と特別支援学校等からの異動や連携を強力に進めていくことが必要であると考えます。	川口委員
13	○ 資料にあるように「様々な事情を抱える生徒」に広く学びの機会を与えるという使命は今後ますます、重要になってくると思われる。立地場所等も含めてさらに充実した体制で存続させていくべきと考える。ただし、工業高校定時制は生徒の実態に即した在り方を検討すべきである。	千代谷委員
13	○ 資本主義社会の中ではどうしても必要です。学ぶ機会を用意することの意義は重要です。 ○ 他県には農業の専攻科がありますが、本県の定時制工業科がそうであるように、希望する生徒は減少傾向にあります。費用対効果という言葉は教育界ではなじまないのかも知れませんが、「背に腹は替えられない」という言葉も選択肢に入るとすれば、財政面からも検討すべきであると考えます。	佐藤委員
13	○ 入学希望者数の問題ではないと思う。今後もそのニーズ、必要性は高まるだろうし、魅力ある充実した、より個々の適性に応じた課程内容が必要ではないか。	南谷委員

頁	項 目	委員名
14	4 通信制課程の方向性	
	(1) 加除修正に関する意見	
14	○ (現状) (今後の方向性) とともに 「高等学校教育の機会」となっていますが「 <u>高等学校教育を受ける機会</u> 」と「3 定時制課程」の「方向性」に合わせた方がいいと思います。また、「 <u>進路変更の機会</u> 」も「 <u>進路変更を考える機会</u> 」としたらいかがでしょうか。	相馬委員
	(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見	
14	○ 通信制の3校は中南、東青、三八と地域的にもバランスが取れており、現行を維持して行くべきと考える。 ○ 通信制の後期入学制度は、通信制本来の目的にも合致するものであり、また、高校入学後の進路変更等による生徒へ教育の機会を提供できることもあり、早期に実施に向け検討すべきと考える。	川口委員
14	○ 高校進学に際して、「入りたい学校」よりも「入れる学校」を選択してしまう生徒が少なくない。そのような生徒が、高校入学後に進路変更を希望する場合、再出発の良い機会となることから、通信制課程における後期入学制度の導入については、前向きに検討すべきである。	山口委員
14	○ 定時制課程と同様に果たしている役割は大変大きい。今後は ICT などを活用した授業など柔軟に教育環境を整備すべきと考える。	千代谷委員
14	○ 今後、効果を望める課程であると考えます。 方向性にあるように、e - ラーニングのシステムがどんどん構築され、大学でも取り入れています。ここでの学びで、定時制課程は勿論、その他の課程においても座学+確認テスト=単位認定という在り方を研究する必要があると考えます。	佐藤委員
14	○ 入学希望者数の問題ではないと思う。今後もそのニーズ、必要性は高まるだろうし、魅力ある充実した、より個々の適性に応じた課程内容が必要ではないか。(定時制課程と同意見のため再掲)	南谷委員

頁	項 目	委員名
15-17	5 多様な教育制度の方向性	
(1) 加除修正に関する意見		
<単位制>		
15	(現状) 「県内の導入校3校は、いずれも国公立大学進学希望者が圧倒的に多く、生徒の志望に沿った教育課程を編成して成果を上げている。しかし、科目選択の幅の広さや自由度において、単位制の利点を十分に活用しているとは言い難い。」 (今後の方向性) 「当該制度の特色を生かすことにより、生徒の興味・関心を高め、進路志望等の達成に資することができる場合には、新たな単位制導入校の設置についても検討する必要がある。」 としてはどうか。	相馬委員
15	○ (現状)のうち「県内の導入校3校は、…は言い難い」の二つの文章に何か適切な接続詞があれば良いのではないかと感じる。	福井委員
<中高一貫教育>		
15-16	○ 連携型中高一貫教育と併設型中高一貫教育の文面が「身に付けさせている」と「身に付けている」で異なっているので統一した方がよい。	福井委員
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
<単位制>		
15	○ 単位制については、多様な講座が開講できなければ設置目的を達成することは困難である。進学に特化した単位制でなければ本県の財政状況から設置は厳しいのではないかとと思われる。	千代谷委員
15	○ 単位制が示す高校の在り方についてはその意義や使命が明確に示されていません。	佐藤委員
<中高一貫教育>		
15-16	○ 中高一貫校は、全国的にも併設型で進学実績の成果が出ており、本県でも積極的に導入すべきと考える。しかし、連携型は果たして6年間通した連携ができるのかという点で問題はある。中等教育学校は途中での転校や人間関係悪化の際の対応など問題は多いと思う。本県での導入にはまだ時間は必要と思う。	千代谷委員
16	○ 併設型中高一貫教育は、その設置趣旨、実績などから広域的募集も視野に入れながら充実させる方向を探るべきである。	高橋(公)委員
15-16	○ 併設型中高一貫校は成果も見られ、今後もより積極的な展開が望まれる。その効果がより結果に表れる青森高校、弘前高校、八戸高校のトップ校への設置を望む。一方、連携型はその価値を見出しにくく、必要性が感じられない。	南谷委員
16	○ 青高、弘高、八高のうちの一校を中高一貫校にしてエリート人材の育成を行ったらどうだろう。東大をめざし、官僚や医者として青森県のために働いてもらう人材を育成するために…。これこそがオール青森だと思います。	相馬委員

頁	項 目	委員名
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
＜中高一貫教育＞		
16	○ 都市部の進学実績のある高校へ併設型で設置するのであれば、中学生・保護者からも理解が得られる可能性はあると考える。併設型の中高一貫で効果があると思われる地域を検討して配置を考えても良いのではと思う。	川口委員
16	○ 中高一貫教育にはプラスとマイナスの両面はありますが、三本木高校と附属中学校の在り方から、予想以上の効果が示されており、この方向で進めるべきであると考えます。 ただ、人口減少が顕著な地域で中高一貫教育を実施することは困難であると想像できます。	佐藤委員
16	○ 併設型中高一貫教育は、大学進学を目指す生徒にとって魅力的だと思う。 したがって、今後も同様の学校(中等教育学校を含む)の設置を期待したいが、各市町村の意向や当該地区の中学校の生徒数の推移を考慮し、慎重に判断するという考え方には賛同する。 ○ なお、今後新たに設置することになる場合は、(県内唯一の三本木高校・附属中学校が実績を上げているのは、三市以外に設置したことも一要因ではないかと思うことから、)例えば五所川原市やむつ市など三市以外に設置することを検討すべきではないかと思う。	山口委員
＜総合選択制＞		
17	○ 弘前実業を例に見てみると2年次で2単位、3年次で3単位の選択履修幅がある。専門性の深化が問われるのではという懸念と、一方では自分の進路が明確になってきた時に関連する授業を受けられるというのは生徒にとって好ましいことと思う。生徒や保護者の満足度調査など、現状についてのより緻密な分析が必要と考える。	千代谷委員
17	○ 総合選択制の必要性は感じていません。	佐藤委員

頁	項 目	委員名
18-19	6 学校・家庭・地域との連携の推進	
(1) 加除修正に関する意見		
<大学等との連携>		
18	○ 「高等学校段階から大学レベルの教育・研究に触れる機会を設けることにより、意欲的な生徒の能力を伸長させることが期待できる。」としてどうか。	相馬委員
<家庭・地域との連携>		
19	○ 「 <u>家庭・地域それぞれの教育機能の充実を図る</u> 」とあるが、 <u>充実を図る方策を示すことが必要ではないか。</u>	遠島委員
19	○ 「しかし、 <u>核家族化や地域社会の連携の在り方の変化等により、保護者や近隣の大人が子どもと接する機会が減少するなど、子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化し、家庭の教育力の低下も指摘されている。</u> ○ 「子どもたちの教育環境の充実のためには、 <u>小学校・中学校は言うまでもなく、高等学校においても、家庭・地域の持つ教育機能の充実を図るため、相互の連携を強化し、一体となって取り組む必要がある。</u> 」 としてどうか。	相馬委員
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
<連携全体>		
18-19	○ 高等学校間の連結を第一義的に考えるのではなく、地域での参画事業と連結することで、必要な役割が明確に見えてくるように思います。そこから、家庭と連結することでスムーズな展開が図れます。 ○ また、祭り等の地域事業の参画を三者（学校+地域+家庭）で取りまとめることも重要な在り方であると考えます。 ○ 他校種の学校との連結は絶対必要で、まずは、教員同士が足を運び、地域課題を共有することが重要だと考えます。	佐藤委員
<高等学校間の連携>		
18	○ 高校の意識の問題が大きい。積極的に進めるといふ共通理解さえあれば推進は可能であると思う。障壁は移動等の交通費など財政問題だけである。	千代谷委員
<小学校や中学校との連携>		
18	○ これまでの各種連携事業での発表を見た限りでは連携の成果は大いに出ていると感じた。今後も積極的に進めていくべきと思う。	千代谷委員
<特別支援学校との連携>		
18	○ 教員、特に高校側の教員研修は不足している。時間的な制約(部活や講習など)もあるが、今後インクルーシブ教育を進めていくためには、研修の充実は必要である。さらに「合理的配慮」を考えると財政的な裏付けも必要である。いずれにしても今後「共生社会」の実現に向けて大変重要であると考えます。	千代谷委員
18	○ 障害等に関する教員の研修や特別支援学校との連携、人事交流は今後ますます必要性が高まるものと考えます。実施できるものは、早急に行うべきと考えます。	川口委員

頁	項 目	委員名
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
＜大学等との連携＞		
18	○ 大学側の意識の変化もあり、ここ数年で大学との連携の動きは大変加速している。今後も積極的に連携を強めていくべきと考える。	千代谷委員
18	○ 大学との連携に関して言えば、社会的有用性を欠いた世界で自己目的化したサバイバル競争に終始している大学人も多いようだ。真剣に学生と向き合っている高校教員から逆に刺激を受けることもあるのではないか。その意味から連携して、より良い高等教育を目指して欲しい。	高橋（公）委員
18	○ 大学との連携は今後もさらに積極的に展開するべきと思う。さらに、中学校とは教師の連携も必要ではないか。	南谷委員
＜家庭・地域との連携＞		
19	○ 資料にあるように家庭・地域の教育力低下は否めない。学校が核となって進めていかなければと思う。	千代谷委員

頁	項 目	委員名
20	7 魅力ある高等学校づくりへの取組の推進	
(1) 加除修正に関する意見		
20	○ 専門的スタッフの整備が必要だが、特に郡部校においては魅力ある高校が要求される。それは中途半端でなく、思い切った改革が必要。例えば、海岸に近い高校に「マリンレジャー科」を設置するとか、山の中の高校には「登山学科」など。また、それにより、県内だけでなく、全国から生徒を募集することが可能になるのでは。人口減、生徒減が進む中、ただそれを憂えるのではなく、積極的な展開をしかけなければ生き残れない。 また、 <u>本案の「本県の高校生にとって得難い価値をもたらすのかどうか…」とあるが、他県の生徒との交流はマイナスもあるにしろ、プラスの方が大きいのではないか。可能なら削除してほしい。</u>	南谷委員
(2) 学校・学科の在り方の検討に向けた意見		
<各学校の魅力化・各学校の情報発信>		
20	○ 各高校は時代が求める教育の推進を意識し、学校改革を進めていく必要がある。また、その取組や特色、魅力を積極的に中学校側に伝えていかなければならないと感じている。なかなか直接伝える機会も少なく、もどかしい思いがある。	千代谷委員
20	○ 「魅力ある「行きたい学校」として中学生やその保護者に選ばれる学校であることが重要である。」とあるが大賛成である。学校や教員に大いなる努力を求めたい。	遠島委員
20	○ 制度・組織の問題以前に魅力ある学校づくりのためには、「魅力ある先生」が必要である。	高橋（公）委員
<教員の資質向上と専門的スタッフの配置>		
20	○ 教員の資質向上のための研修機会の充実を一層図って欲しい。	千代谷委員
20	○ 絶対に必要なことは、魅力的な教員の採用にあります。	佐藤委員
<全国からの生徒募集>		
20	○ 近い将来、実現すべき課題であるように思います。特に、寮を持つ農業高校（拠点校とすべき農高）では可能ですし、魅力的で先進的な実践は他地域にも評判になっておりますので、早い対応が重要です。学校の整備等には経費がかかりますが、他地域の血を入れ込むことで、食料供給産業教育としての農業教育の位置付けがより強くなります。	佐藤委員

頁	項 目	委員名
	8 その他（上記以外について）	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 報告書全体が多少散漫（メリハリに欠ける）な印象を受ける。全体に配慮する中ではやむを得ないのだろうが、例えば、今後の本県の将来像を念頭に、農業高校の記述に重点を置いて、工業、商業、家政（食育・調理との関連から）と連携した学校・学科の在り方を構想するなどしてみたらどうだろうか。 ○ 地域特性を考えて、工業を中心とした構成、商業を中心とした構成などもあり。 ○ 特色のある答申にするためには、テーマ（学科）を絞り込んだ議論がどこかで必要だと思う。 	高橋（公） 委員
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在の高校生が成人し、県内で仕事を持ちひとり立ちしていくまで、今後、12～15年ぐらいかかると想定した場合、本構想検討会議は、慎重であることは勿論ですが、ギアチェンジして、もっと加速すべきであると思います。 ○ また、先行している学校の事例を絞り込み、プロジェクト校として特別に県が指定し、教育効果を検討すべきだとも考えます。 	佐藤委員
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の方向性として様々示されているが、例えば、単位制の活用により選択科目の充実や、総合学科の教育内容の充実等については、そのための教員確保や施設・設備、予算面等は確実に行わなければならないと思う。また、実習を伴う学科にあっても同様である。 	川口委員